

おかやま子ども支援ネットワーク事業 年間事業報告書【備中圏域】

担当法人：認定NPO法人ハーモニーネット未来

(※記載内容は、令和5年3月31日時点のものです)

1 担当法人の紹介

(1) 設立経緯・活動目的

認定NPO法人ハーモニーネット未来（以下「ハーモニー」という。）は、1987年に設立されました。

『ふれあい・たすけ愛社会（地域共生社会）の創出～子どもから高齢者まで安心して自分らしく～』を目標に、子どもから高齢者、障がい者、若者まで、今を生きるすべての人が自分らしくいることのできる多くの居場所と「困った時はお互いさま」を合言葉に、助け合い社会をめざしています。

貧困などの個人の課題を社会全体の問題としてとらえることが、行政、企業、団体等、多様な主体による支援体制の仕組みの構築や、他者の「困りごと」を「我がこと」として考えることにつながります。そして、「まるごと」引き受けていく「支えあい文化」の醸成により、ハーモニーのめざす、『安心して自分らしく生きていくことのできる、ふれあい、たすけ愛社会』に寄与すると考えています。

(2) 活動内容

- 文化・生活・自然・農業体験活動の提供
- 安心して自分らしくいることのできる居場所の提供
- 生活の中の困りごとの解決のための生活支援
- ひとり親家庭、生活困窮家庭のための「いのちまるごとプロジェクト」事業
- 住宅確保要配慮者の居住支援「あんしんまるごとプロジェクト」
- 小規模多機能型居宅介護施設「ささえ愛の家ハーモニー西大戸」
- 「大井児童館」指定管理運営
- おひさまプロジェクト：市民協働による「おひさま発電所」「おひさま基金」
- 情報誌発行事業「ハーモニーしんぶん」
- 行政・諸団体および各分野・NPO夫人などとの協働・連携事業
- その他、目的を達成するために必要な事業 等

2 備中圏域の子どもの貧困及び支援団体の現状・課題について

(1) 備中圏域の子どもの貧困の現状・課題について

- ・活動を通じて見えてきたことは、支援を必要としている人の急増と、困りごとや貧困の背景にある実態の複雑さです。
- ・収入が少ないということだけではなく、金銭管理ができない、借金、多重債務、ゴミ屋敷、離婚、血縁関係、精神疾患、発達障がい、知的障害、愛着障がい、虐待、DV被害等が複雑に絡み合い、解決の糸口が見えないのが現状です。
- ・性差別、医療格差、教育格差に加えて、体験の格差による影響が大きいです。家族旅

行をしたことがない、誕生日を祝ってもらったことがない、部活動に参加できない、家に本もなく、文化芸術にふれる機会もない。こうした体験の欠如はわかりづらいが、その積み重ねは「コミュニケーション力」「自己肯定感」などの「社会を生き抜く資質・能力」等、その後の人生に重大な影響を及ぼすのではないかと懸念されます。

- ・日本における貧困の現状として、相対的貧困率 13.9%、ひとり親家庭においては 50.8%という高い数字が打ち出されているが、「豊かな日本にそんな貧困者がいるのか」とまだまだ理解が低いのが現実です。
- ・貧困の連鎖が日本社会に与えている損失も大きいです。日本の未来を創る子どもたちの心豊かな成長・発達は重要であり、生まれ育った環境によって子どもの未来が閉ざされることがないように、尊厳を守りながら自分らしく安心して生活できる環境を確保していくための仕組みづくりが急務です。
- ・貧困という個人の課題を、社会全体の問題としてとらえ、行政、企業、各種団体、市民、地域にある資源を集め、早急な支援体制の仕組み構築、ネットワーク構築をめざすことが重要です。

(2) 備中圏域の支援団体の現状・課題について

- ・備中圏域で実施している子ども食堂等は、長期化するコロナ禍において、会食形式から弁当配布に切り替えています。どの地域も食料支援を必要としている家庭が増加しています。
- ・今後、子ども食堂では会食の再開をめざしているが、利用者の増加に伴い、広い場所の確保が課題です。
- ・保険・個人情報の保護・ボランティア確保・行政との連携等も重要であるが、一番の課題は民間団体の自主財源の確保です。
- ・フードバンク活動にも限界があり、食料を確保できたとしても拠点までの運搬は誰が担うのかなど、難しい問題が多いです。
- ・子ども食堂や居場所の有無といった情報がない空白地もあり、今後思いを同じくする団体を発掘し、支援の充実を図る必要があります。

3 おかやま子ども支援ネットワーク事業の取組について

(1) 情報発信・情報共有を含めたネットワーク体制の構築

①ネットワークの構築

【ネットワークの目的】

- ・子どもの居場所や子どもへの支援を行う団体間で、情報共有や情報発信等を行うことです。
- ・持続可能な仕組みづくりや運営の強化、対応力の向上等を図ると共に、一団体だけではできない課題を、ネットワークの力を活かして解決することで安心して暮らし続けることができる地域をめざします。

【ネットワーク登録団体数】 22 団体（うち市町村社会福祉協議会 2 団体）

【会員の属性】 子ども食堂、フードパントリー、放課後等デイサービスなど

②ネットワーク参加の働きかけ

- (1) 子どもソーシャルネットワークセンターつばさが作成した「子ども食堂マップ」から、備中圏域の団体に現在の活動状況を電話調査しました。
- (2) (1) のマップには掲載されていない「子ども食堂」の発掘のため、年数回の地域食堂を開催している団体や、現在「こども食堂」と「フードパントリー活動」を実施している団体に、訪問調査・参加要請等を行いました。
- (3) 備中圏域の市町村役場・市町村社協への周知、ネットワークへの参加要請をしました。
- (4) 高梁市社協、新見市社協へ実態調査を行いました。そのつながりで、高梁市内で「子ども食堂」開催を希望する団体へ説明と助言を行いました。
- (5) 研修会・交流会を通じて、新規参加団体に参加を要請しました。
- (6) ネットワーク参加メリットの周知をしました。
 - ・共通の目的実現にむけて協力することによる信頼できる仲間づくり
 - ・フードバンク活動を通じた食料提供
 - ・困難ケースの相談、連携対応

③ネットワーク会議

◎2022. 7. 22 (金) 第1回研修および情報交換会：備中県民局 会議棟

(参加者) 26名

(内 容) ①「貧困の現状」 講師：直島克樹先生 (川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科)

②おかやま子どもネットワーク事業説明

③情報交換 等

(参加者の声)

- ・様々な実践者や支援機関が会うこの場所を今後も大切にしながら、一層のネットワークの構築と連携のチカラが個の暮らしに届くようになればと考えています。(倉敷社協)

(成 果) 子どもを取り巻く社会的孤立の現状と、様々な支援者や地域との連携の必要性・可能性を改めて知る機会となりました。

◎2022. 10. 26 (水) 第2回研修および情報交換会：備中県民局 会議棟

(参加者) 27名

(内 容) ①「貧困が日本社会に与える影響」 直島克樹先生

②情報交換 等

(参加者の声)

- ・新しいつながりが生まれて有意義に話し合えたと思う。(順正学園ボランティアセンター)
- ・またひとつ、ネットワークが広がった。(笠岡市役所)
- ・様々な団体の意見を聞く機会になり、大変ありがたかった。(里庄町役場)

(成 果) 貧困がもたらす子どもや社会への影響を学び、それぞれの団体の活動を振り返る機会となりました。また、支援者同士のゆるやかな横のつながり

をつくるきっかけとなった研修会でした。

◎2023. 2. 16 (木) 第1回備中ネットオンライン情報交換会および交流会
(ZOOM 使用)

(参加者) 10名

- (内 容) ①各団体の活動の様子
②それぞれが抱える課題等共有
③ネットワークでつながるメリット

(参加者の声)

- ・初めての話を聞いてよかった。日中は放課後デイサービスをしているが、Zoomならまた参加したい。
- ・普段何でもない時から支援者がつながっていれば、利用者が何か起きた時にすぐ対応できる。

(成 果) 少人数で開催されたことにより、オンラインではあるが参加団体がそれぞれ抱える課題を話しやすい交流会となりました。

1団体だけでは解決できない課題を、ネットワークで共有することにより、多様な支援の方法を考えるきっかけとなりました。

◎2023. 3. 2 (木) 第3回 岡山子どもの居場所 研修・交流会
～こども食堂などの子どもの居場所活動の今とこれから～

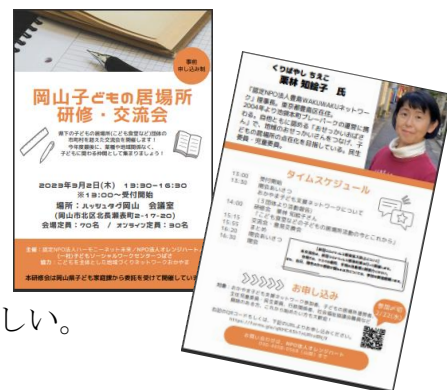
(場 所) ハッシュタグ岡山 (岡山市内)

(参加者) 59名 (現地参加者 26名 (講師含む)、オンライン参加者 21名、
スタッフ関係者 12名)

- (内 容) ①開会挨拶 岡山県子ども家庭課
②おかやま子ども支援ネットワーク事業報告 (3拠点)
③研修会：栗林知絵子さん(認定NPO法人豊島 WAKUWAKU ネットワーク
理事長)

「こども食堂などの子どもの居場所活動の今とこれから」

- ④交流会&意見交換会 (グループワーク)
⑤質疑応答
⑥閉会挨拶 直島克樹先生



(参加者の声) ・民間と行政とのかかわりは必要だが難しい。

- ・小さなネットワークが大事。
- ・行政を巻き込むことは必要。
- ・今だけでない、将来を見据えたネットワークが必要。
- ・これから始める人は、ボランティアとの関係の取り方や個人情報の管理の仕方、行政とのかかわり方とかあるけれど、ボランティア

には、あまりかちっと固めないで、各々が役割を見つけていくだろう。

- (成果) 3圏域それぞれで活動している団体が合同研修会でつながりを広げ、県全域の支援の質の向上とさらなる横のつながりを強化するきっかけとなりました。

◎2023. 3. 11 (土) 第2回備中ネットオンライン情報交換会および交流会 (ZOOM 使用)

(参加者)8名

- (内容) ①各団体の活動の様子
②それぞれが抱える課題等共有
③これからの備中ネット

(参加者の声)・普段平日は忙しくフルタイムで活動しているため、土曜日の午前中のオンライン実施はとても参加しやすかった。

- ・各支援団体や県担当者が参加し、それぞれの立場から現状と課題を話すことができ、心強く感じた。また、話すだけの会議でなく、支援団体と行政とのつながりも感じられた会議だった。

(成果)・少人数のオンラインでの参加であったが、話しやすい状況で個々の現状や課題を共有することにより、より結びつきを感じる機会となった。

④情報発信・情報共有（食材提供や寄附等）の状況

- ・備中ネットワーク登録団体および備中圏内の市町村社協へフードバンクを活用した食料品の提供：延べ49団体に、延べ56回実施（備中ネットの団体では8団体が利用しました）
- ・食料品を提供することにより、コロナ禍において必要としている人の増加に対応することができ、ネットワーク間の信頼関係の構築となりました。
- ・ネットワーク間の情報共有を、SNS(グループLINE)を使用し発信することで、タイムリーな食料提供や会議の案内が届くようになりました。グループLINEにまだ登録されていない支援団体には、同じタイミングで電話やメールで情報発信を行いました。

⑤協力企業・団体の発掘、連携

寄付の申し入れがあった企業の食品を、ネットワークメンバーとシェアすることにより、子ども食堂等で増加傾向にある利用者に対応することができました。

連絡方法：グループLINE・メール・電話を使用。

- ・たかた採卵：破卵
- ・清水屋食品（株）：生クリームパン
- ・フードバンク岡山：ビーフカツ・アルファーマ

⑥ボランティア等の受け入れ

- ・ボランティア募集

(広報)チラシを作成し、児童館や高校へ掲示・配布しました。また、地域の塾へ広報を行い、塾生にお知らせしていただきました。

当法人HP、フェイスブックでのお知らせ、事務所でのチラシ掲示をしました。
(仕事内容)フード&ライフドライブ「てとて」の準備から当日のブース担当を行っていただきました。

(工夫した点)「てとて」グループLINEに支える側・支えられる側といった立場を作らず、お互いさまの気持ちでみんなが支えあおうと、ボランティア募集のお知らせを入れ、希望者には、当日ブース担当をお願いしました。

(2) 市町村域を超えたフードドライブを通じた見守り支援の実施及び実施体制の構築

①対象者の把握方法

- ・児童扶養手当現況届時に手紙配布：笠岡市
- ・児童扶養手当現況届時にチラシ配布：浅口市
- ・行政・母子父子支援員・スクールソーシャルワーカーより紹介
- ・現在つながっている要支援者からの紹介 など

②物資の収集方法

- ・提供企業と「食品の提供・譲渡に関する合意書」を交わし、企業とNPO法人間での契約を取り決め、継続した事業としました。
- ・一般社団法人全国フードバンク推進協議会の登録による食品提供を受けました。
- ・県内のフードバンク団体ネットワークによる食品提供を受けました。
- ・政府備蓄米の交付を受けました。
- ・行政・企業・学校・市民等のフードドライブ活動による食品提供を受けました。
- ・井笠エリアの農業生産法人、食品企業を訪問し、主旨説明・食品提供要請を行い、契約につながりました。
- ・笠岡市は大干拓地を有し、農業生産法人が多く、季節の農産物の提供があります。
- ・食品寄付に対する心ばかりのお礼として、当法人の舞台芸術鑑賞活動時の招待を行っています。

③配布方法

◎毎月1回実施

◎当法人事務所にて手渡し：

- ・自分で必要な物のみを選んでいただく方式。
- ・制服、日用品、服、電化製品等の展示や写真で紹介し、提供。
- ・必要なものを連絡いただき、当法人のネットワークを通じて集め、提供。
- ・夏には「かき氷」、クリスマスには「サンタさんとじゃんけん大会」によるお菓子プレゼント等、子どもたちも楽しめるイベント要素も取り入れている。
- ・チャリティーサンタさまとの連携による、絵本等の提供を行い、プレゼント用に包装もしています。

◎車のない人、遠方の人には宅配：数件の配送業者から見積もりを取り、一番安価な配送業者と契約して実施しています。

④相談対応件数

実施時期	相談実績
2022年4月	234
5月	292
6月	60
7月	274
8月	272
9月	60
10月	70
11月	78
12月	80
2023年1月	110
2月	89
3月	130
合計	1,749

相談内容：ひとり親家庭の家計相談、金銭管理（対面）・ゴミ屋敷問題（片付け）・DV相談（対面）・離婚別居相談（LINE/対面）・居住支援（対面）・オンライン学習相談・外国籍親子の進学問題・言葉の問題 など

⑤関係機関につないだケース

- ・市町村：36件・学校関係：8件・SSW：27件・関係機関：6件・SSW：1件
（内容）・子育て中の親子（シングル世帯）：母親自身の親からの虐待、母親の精神疾患により、仕事に就けない。収入がない。子どもの学校の相次ぐ転校→相談機関へつなぎました。
- ・DVから逃れるために笠岡に移住。母親の心の安定が難しく、面会交流や調停など、不安が多い。→市の担当、学校、SSW等とケース会議を行いました。

⑥これまでの活動エリアを超えてのフードドライブの実施

- ・2022年度に備前圏域以外に商品を提供したエリアは、備前圏域（赤磐市7世帯、吉備中央町12世帯、岡山市52世帯、瀬戸内市23世帯、玉野市3世帯）と広島県（福山市46世帯、尾道市11世帯 ※世帯数は累計）でした。

4 本事業を実施して感じたこと

(1) 課題

- ・行政からの食品提供の相談も相次いでおり、希望者も増加しているにもかかわらず、公費がないのも現状です。より良い活動にしていくにも財源は必須であり、必要な人に必要な支援が届く仕組みづくりが急務と感じます。
- ・毎日の食べ物に事欠くことは氷山の一角であり、「貧困」が食料支援だけで解決することは決してありません。「見て見ぬふりはしないよ 応援しているよ」というメッセージと共に、当事者と支援者が信頼できる関係性を結び、真の課題解決をめざすために個々の支援団体がつながり、課題を共有する必要があります。
- ・「貧困」という大きな課題を、子ども食堂などの居場所だけで扱うのは、ハードルが高いです。各支援団体、行政、専門機関等とのつながりの中で解決に向けた動きが重要であると考えます。

(2) それに対する解決方法

- ・より良い活動にしていくためにも、財源は必要であるため、助成金申請をしている

が不採択となることが多く、解決には結びついていません。

・各支援団体のネットワーク「備中ネット」を今後も途切れることなく運営していき、課題解決に向けた会議等を行い、共通認識をもち、横のつながりを深めていくことが重要と考えます。

(※記載内容は、令和5年3月31日時点のものです)